

# みんなの図書館

発行

松戸市立図書館

〒271-0092 松戸市松戸2060

☎047-365-5115

平成 20 年 3 月 1 日

第 149 号

常盤平分館 387-2528	小金分館 343-8658	松飛台分館 386-6401
稔台分館 367-7196	明分館 368-6705	二十世紀が丘分館 392-7022
小金原分館 344-8269	六実分館 385-0117	八柱分館 387-2613
矢切分館 368-1243	東部分館 391-0595	八ヶ崎分館 348-6636
馬橋分館 341-4100	新松戸分館 343-6006	和名ヶ谷分館 392-1102
古ヶ崎分館 367-4500	馬橋東分館 346-2054	
五香分館 386-8250	小金北分館 343-3302	

 ホームページアドレス <http://www2.city.matsudo.chiba.jp/toshokan/>

児童文学講座

## 「絵本づくりの愉しみ ～次世代へ伝えたいメッセージ」

「ぐるんぱのようちえん」の

～西内ミナミさんをお迎えして～

松戸市立図書館では、1月22日（火）松戸市女性センターゆうまつどにおいて児童文学講座を開催しました。講師には、絵本作家の西内ミナミさんをお招きし、「絵本づくりの愉しみ～次世代へ伝えたいメッセージ」をテーマに2時間にわたる講演をしていただきました。

西内さんは大学卒業後、広告会社にコピーライターとして勤務。堀内誠一氏の勧めにより、デビュー作であり代表作でもある「ぐるんぱのようちえん」（福音館書店）を出版されました。その他絵本作品には「きつねのフラときつねずし」（草土文化）、「おもいついたらそのときに！」（こぐま社）、「しっこっこ」、「おやまごはん」（偕成社）など多数。また、杉並区文庫連絡会の代表をされるなど文庫活動にも尽力されました。

当日はお子さん連れの方も含め80名が参加され、出版以来40年以上今なお多くの人々に愛され続けている「ぐるんぱのようちえん」の誕生秘話や作者自身による読み聞かせなど、楽しいお話しに会場はいつしか絵本の世界に引き込まれていました。



大きなゾウのぐるんぱは、汚れていつも一人ぼっちでした。どんな仕事をしていても追い出され、悲しい思いをしていましたが、最後には幼稚園の先生になり、子どもたちに喜ばれました。「ぐるんぱのようちえん」は、どんな人にもぴったりの仕事があるし、その人が必要とされる居場所があるのだと感じさせてくれる絵本です。子どもはもちろん大人も楽しめるこの作品はどのように誕生したのでしょうか…。

西内さんがコピーライターの仕事をしていた時代は、女性は結婚・出産を機に退職する人が多かったです。西内さんは子育てをしながら仕事を続けましたが、この仕事が本当に自分に合っているのか、迷いや悩みがありました。先のことはくよくよしないで、一生懸命やっていたら不器用さも最後には役に立つ、この物語はそういう20代の自分の潜在意識や夢がもとになって誕生したそうです。子どもはいじめを受けると3～4歳でも落ち込むことがあるし、傷つくこともあります。大人は他人にグチをこぼすが、子どもは一人でじっと耐えています。子どもは3～4歳でも真剣に生きている。落ち込んだときに落ち込んだゾウの話しを読んでもらうと元気になるのです。

- 📖 子どもに本を読む時間を作ってください。
- 📖 そして、大いに図書館を利用してください。
- 📖 家計費の中から絵本代も…



児童サービスの現状としては、1992年にイギリスで誕生したブックスタートが2000年に日本に紹介され、2001年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。また、学校での朝の10分間読書の取り組みなど明るい話題もあります。しかし、最近は5~6歳から受験コースに入ってしまう子どもが多い。せっかく本を好きになって、次は読み物に進んでほしいのに、塾や習い事などで忙しいために本が読めない。細切れの時間でできるのはコンピュータゲームだけになってしまう。この現状を西内さんは憂慮しています。

子ども達には、個性や成長の段階により、その子に合う本、合わない本があります。ぜひ図書館を利用してください。子どもが気に入って何回も読むようだったら、その本を買ってあげてください。参加者の中には子育て中の方も多いようですが、家計費の中に『絵本代』という項目を作ってください。そして、ダンボール箱でもいいから子どもの本棚を作ってあげると、子どもはちゃんとオモチャとは区別して本を大切にできるようになります。

「ぐるんぱのようちえん」は40年以上多くの人々に読まれミリオンセラーになった本！  
これからも子どもの心がハッピーになるような作品を作り続けたい…

参加者の中には、西内さんのお話しを楽しみに来られた方も大勢おり、大型絵本を使っての作者自身による読み聞かせを目の前で体験して、とても感激された様子でした。また、会場から活発な質問もあり、その答えとして、最近はさまざまな絵本が玉石混交で出版されており、よく見極めて選んでほしいと、言われました。西内さんは、これからも子どもが満足して心がハッピーになるような作品を1作ずつ作り続けたい、とおっしゃっています。



### 📖 すぐれた本との出会い、図書館利用のすすめ



「上質の絵本は時代を超えて愛される。」といわれますが、西内さんの作品からは、子どもに対するあふれるばかりの愛情や、不器用でも真摯に生きることの素晴らしさが伝わってきます。幼い頃にすぐれた本に出会うことはとても大切です。子どもたちに本を読む喜びや楽しみを伝え、読書習慣を身につけさせる。発達段階に応じて最も適した本を与えることが大切です。そのために、ぜひ図書館をご利用ください。多くの子どものにとって図書館は、公共機関を自主的に利用する初めての体験であり、公共性を学ぶ場でもあります。図書館利用が、生涯学習の入り口となり、感性豊かな人格の形成に役立てば幸いです。

